

**第6次高浜市総合計画推進会議（第1回） 会議録**

日 時	平成28年6月2日（木）午後6時～7時		
場 所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	1名
出席者	委 員	中川幾郎、酒井康満、岩月義成、菅野洋一、清水恵子、高桑雄司、田代峯子、内藤靖子、古橋知美、宮田克弥、神谷坂敏（11名出席）	
	行 政	教育長 都築公人 総務部長 内田徹 市民総合窓口センター長 大岡英城 福祉部長 加藤一志 こども未来部長 中村孝徳 都市政策部長 深谷直弘 議会事務局長 加藤元久 財務グループ リーダー 岡島正明 文化スポーツグループ リーダー 鈴木明美 教育センターグループ リーダー 内藤克己 教育センターグループ 主幹 岡本竜生 こども育成グループ リーダー 都築真哉 地域産業グループ リーダー 板倉宏幸 市民生活グループ リーダー 芝田啓二 都市整備グループ リーダー 田中秀彦 地域福祉グループ リーダー 木村忠好 保健福祉兼生涯現役まちづくりグループ リーダー 磯村和志 人事グループ リーダー 杉浦崇臣 税務グループ リーダー 山下浩二 行政グループ リーダー 山本時雄 企業支援グループ リーダー 島口靖 上下水道グループ リーダー 杉浦睦彦 介護保険・障がいグループ リーダー 竹内正夫 福祉まるごと相談グループ リーダー 野口真樹（24名出席）	
	事務局	企画部長 神谷美百合 総合政策グループ リーダー 野口恒夫 同 主 幹 榊原雅彦 同 主 査 山本久美 同 主 事 稲垣翔太 同 主 事 岡田真吾 同 主 事 加古博紀 同 主 事 川合晃三（8名出席）	

<p>次 第</p>	<p>1 あいさつ  2 議題  1) 「平成28年度市民意識調査」結果について  2) 施策評価を進めるにあたって  3 その他</p>
<p>資 料</p>	<p>資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第7回） 会議録  資料2：平成28年度「市民意識調査」「小・中学生アンケート」結果について  別添資料：「第6次高浜市総合計画推進会議委員 名簿」・「平成27年度施策評価シート とりまとめ部署一覧」</p>

## 1. あいさつ

- 会 長： ・本日は、「市民意識調査」の結果報告並びに、次回以降本格的に施策評価を行っていく前段階として、各部局長の皆さんから、各部局における今年度の重点施策や、意気込み等を発表していただく。  
・今回より新規委員としてお一人方加わられているので、後ほどごあいさつをいただく。  
・行政からのお知らせをお願いしたい。
- 行 政： <交通死亡事故の発生及び「高浜市三州瓦屋根工事等奨励補助金制度」のお知らせ>
- 会 長： ・それでは、ごあいさつをお願いしたい。
- 委 員： ・任期の間、一生懸命やらせていただくのでよろしくをお願いしたい。

## 2. 議題

### 1)「平成28年度市民意識調査」結果について

- 会 長： ・議題1について、事務局より説明をお願いしたい。
- 行 政： ・議題1に入る前に、今年度より委員及び行政も体制が変わったということで、別添資料として「委員名簿・施策評価とりまとめ部署一覧」お配りした。こちらの配布をもって紹介とさせていただきます。  
・資料2の3ページをお願いしたい。「自主財源の額」については、毎年度の決算額を実績値としており、毎年度の決算額は翌年の5月末までを出納整理期間とし、確定する。平成27年度予算の決算額については現在集計中であり、4月末時点での速報値では、104億円となっている。指標の動向の記号としては○となり、資料4ページの指標の動向で、○が7指標→8指標、割合としては、26.9%→30.7%となる。  
(事務局注：広報たかはま7月1日号では、「自主財源の額については、確定次第ホームページで公表」とし、○は7指標、割合は26.9%として掲載します。)  
・資料1ページをお願いしたい。今回の調査も一般向けアンケートと、小・中学生向けのアンケートの2種類を行った。  
・それぞれの有効回収率は、一般アンケートが36.9%、小・中学生向けのアンケートが97.7%となっている。一般アンケートの回収率は前年に比べ1.9%の増となった。その要因として、広報たかはまの表紙や市公式フェイスブックを活用した調査への協力依頼、地域の会合等において地道に協力依頼を行ったことが挙げられると考えている。今後も、より多くの市民の皆さんのご意見を集約すべく、さらなる回収率向上に向けた調査・研究を行っていく。  
・2ページをお願いしたい。基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果について記載されている。  
・動向については、点線で囲った部分に記載のとおり4つに分類している。全体の動向として、平成25年の計画策定時の値と昨年の実績値をともに上回ったのが、◎で示した6目標で半数を占めており、教育・子ども・子育て分野の目標(4)・(5)、福祉分野の目標(10)・(11)で順調な伸びとな

っている。反対に、計画策定時の値と昨年の実績値をともに下回ったのが、×で示した3目標となっている。

- ・計画策定時（平成25年）からの伸び率では、目標（11）が9.7%の増と最も大きく伸びており、次いで目標（7）が5.9%の増、目標（5）が3.3%の増となっている。
- ・3ページ・4ページには、目標ごとに、目標の達成度を計る指標として設けられている「みんなで目指すまちづくり指標」の結果が記載されている。
- ・指標の動向として、4ページに記載のとおり、こちらにある計算式によって平成27年の目標値を算出するとともに、動向を4つに分類して示している。平成27年の実績値が、平成29年の目標値に向かって順調に推移している◎及び○で示したものは、26指標中13指標、反対に、目標値に向かっての伸びが鈍い△及び×で示したものは、26指標中13指標で、目標値に向かって順調に推移している指標と、そうでない指標がちょうど半々の結果となっている。
- ・市民意識調査の結果をどう受け止め、今後の施策にどう活かしていくかについては、第2回及び第3回推進会議における行政からの「施策評価シート」の発表の中で説明させていただく。

会 長： ・確認しておきたい、聞いておきたいといったことがあればお願いしたい。  
(意見・質問等なし)

## 2) 施策評価を進めるにあたって

会 長： ・議題2について、事務局より説明をお願いしたい。

行 政： ・第2回以降の推進会議から施策評価、委員の皆さま方による点検・確認作業が本格的にスタートしていく。  
・施策評価を進めるにあたり、各部局で今年度力を入れて取り組んでいく事柄などについて、「H28 部長の実行宣言」を基に、各部長よりお話をさせていただく。

行 政： ・今年度は、昨年度策定した「しあわせづくり計画」の実践として、職員プロジェクトの立ち上げ、日本福祉大学の学生にも協力いただき、市民へのPRを含め、実践に向けた検討を行っていく。  
・職員の採用について、今年度は10月採用も予定しており、人材の確保に努める。  
・4月1日現在の職員数は274名であるが、過去5年間の定年退職者は100名ほどに上っている。多くの職員が世代交代をしているということで、市民サービスの低下を招かないように努める。  
・女性活躍推進法が制定されたこともあり、女性管理職職員の育成として、自治大学校への派遣を行う。

行 政： ・今年度、幼保小中12年間の「高浜カリキュラム」の完成を目指す。  
・異校種参観について、「小1プロブレム」や「中1ギャップ」をなくすため、隣接する園・学校間の参観に加え、幼保の先生が中学校、中学校の先生が幼

保の参観をするようにしたい。

- ・「目指す子ども像」カレンダーについては、効果的な活用方法を研究するとともに、周知方法も検討していく。
  - ・高浜小学校の施設更新については、行政グループと連携し、遅滞なく進めていく。
  - ・なかなか減らない不登校問題については、行動分析の視点からもアプローチしていく。
  - ・基礎学力の向上では、平均ではなく、どの子もプラス5点を目指す。外国人比率の高い本市では、それぞれの児童・生徒に合った課題や学習方法を考えて実践しなければ、市全体での底上げができないと考えるからである。
- 行政：
- ・施設の統廃合にあたっては、利用者への丁寧な説明を心掛ける必要がある。
  - ・本市庁舎は、早期の耐震化が求められる中で、リース方式のメリットを活かし、スピーディに防災拠点の整備を進めている。
  - ・高浜小学校の整備については、民間ノウハウを活用しながら、ワークショップを通じ、まちづくりの拠点としての整備を進めていく。
  - ・「使用料・手数料」の見直しについては、消費税増税延期を踏まえ、再度検討していく。
  - ・今後は、ランニングコスト、ライフサイクルコストをいかに軽減するかが、自治体経営に大いに影響してくる。
- 行政：
- ・市民に最も身近な窓口として、来庁された市民の目線に立ったサービスの改善を図っている。
  - ・個人番号制度、市庁舎の移転を新たな市民サービス向上の良いチャンスと捉え、次期電算基幹システムの機能を最大限活用し、ICTを活用した新たな窓口サービスを構築していく。
  - ・税の徴収担当は若い職員が多い。若手職員が立案する提案を聞きながら、迅速に多様な施策を打っていく。
  - ・ごみの減量や環境美化については、行政だけでなく市民、事業者、生活環境問題研究会と連携しながら進めていく。
- 行政：
- ・社協が開設する「地域共生型福祉施設あっぽ」において、認知症カフェを実施する。
  - ・ひとり親家庭の学習等支援事業を本日から実施する。
  - ・脳とからだの健康チェック2015は、4,000人ほどの市民に受診いただいた。多くの方がホコタッチにタッチしたくなる仕組みを作る。
  - ・産前産後サポートとして、行政が訪問するアウトリーチ型の支援を引き続き行っていく。
- 行政：
- ・市誌編さんについては、今後5年間かけて取り組んでいく。今年度は、体制づくりや基本方針の策定など、編さんに向けた準備を行う。
  - ・(仮称)高浜緑地多目的広場の整備については、3月議会で防球ネット・防球フェンスなどの上部整備に必要な予算を可決いただいたので、早期の供用開始ができるよう、愛知県造成工事の進捗に合わせ進めていく。
  - ・平成26年度に策定した「子ども・子育て支援事業計画」に沿った、保育環

境の改善に努めていく。高浜幼稚園では、時間延長や土曜日等の長時間の預かりを行い、公立保育園並みの午前7時30分～午後6時までの間で預かりを実施している。

- ・高取幼稚園・高取保育園の民営化・認定こども園化に向けた仕様等の検討を行う。
- 行政：・工業用地の創出として、豊田町三丁目地区では、今年度中に造成工事に着手する。
- ・有事の際に、地域の皆さんがどういった行動をしていただくかをまとめた「地域行動計画」を昨年度策定した。今年度は本計画を町内会等の訓練に取り入れていただき、課題を整理し、内容をより具現化したものにしていきたい。
  - ・昨年度非常に参加が少なかった外国人向け防災イベントを、昨年の反省を踏まえながら実施する。
  - ・社会資本施設の整備、各施設の補修・修繕については、優先度を見極めて計画的に進めていく。都市公園12ヶ所についても、長寿命化計画を策定していきたい。
  - ・三州瓦屋根工事等奨励補助金制度について、外構工事、庭回り等で瓦を使用した際にも活用できるよう、内容を拡充していく。
  - ・かわら美術館の3階を活動拠点とし、若者の視点を入れたコミュニティビジネスの創出を展開する。
- 行政：・市庁舎の建て替えに伴い、議場が多目的に利用できるホールとなる。オープンな市議会を目指し、議会のICT化、視覚的な議会運営を検討している。
- ・様々な議会活動をサポートすべく、事務局職員の職員力の強化が必要であると感じている。
  - ・公共施設の適正な再配置に向け、公共施設あり方計画・長期財政計画に基づき、公共施設のマネジメントを行政とともに、円滑に進めていく。
- 行政：・以上で、各部局長からの発表とさせていただきます。今年度も総合計画に掲げる目標達成に向けて各部局全力で取り組んでいく。

### 3. その他

- 会長：・28年度の推進会議がいよいよスタートを切った。委員の皆さま方から一言ずつ行政に向けてのコメントなどをいただきたい。
- 委員：・今年度は新庁舎への移転など、大きく変わることが多い。市民の皆さんによく理解していただけるような説明をお願いしたい。
- 委員：・新規の部長には、違った切り口から新しい風を期待したい。
- 委員：・実行宣言の内容は、一般の市民からすると理解が難しい部分もある。お母さんたちは、新庁舎のことや市民センターのことなど、市のことに関心を持ち始めている。情報を誤って解釈している方も多いため、説明の仕方が肝心。市民にもっと市のことに関心を持ってもらいたい機会である。
- 委員：・高浜市は今「変革」のとき。このチャンスにしっかりとやらねばならないことを進めてほしい。

- 委員：・実行宣言が若い職員にも浸透するように。そうすれば、市民にも説明できる職員が増えると思う。
- 委員：・あっぽで地域の人が元気になった。新しいことを始める時には地域の人も取り込みながら進めると良い。  
・ホコタッチでまちを元気に歩く高齢者が増えた。小さなことからコツコツと取り組み、まちが元気になるとうれしい。
- 委員：・各部長の熱い想いを感じた。28年度は高浜にとって大事な年。一致団結し、知恵を出して頑張ってもらいたい。
- 委員：・変革の最初の年。頑張ってもらいたい。
- 委員：・「やりたい」ということは書かれているが、具体的な内容が書かれていないものが見られる。  
・今後施策を進めていくには、人材育成が必要。実際に施策がうまくいったのかどうかを測るため、管理数字を明確にしてほしい。
- 委員：・貴重なご意見ありがとうございます。  
・10年後20年後を見据え、少しでも行政コストを削減するよう努めていく。委員の皆さんのご意見を反映させながら、山積する行政課題の解決に向け取り組んでいく。
- 会長：・高浜市は市民と行政の距離が近く、また、参画・協働の実践のレベルが高いことから、全国から注目を集めている。  
・その中で問われることは、タテ割りではなく、総合性を各部局積極的に乗り出すこと。  
・総合性を担保する地域担当職員（まち協特派員）のレベルを上げようとするれば、専門性がどうしても弱くなる。総合性と専門性の両方を追求せざるを得ないのが中小自治体。職員のトレーニングを進めていただきたい。  
・その他、事務局から何かあるか。
- 行政：・地域計画の策定について報告する。  
・「地域計画」は、「高浜市自治基本条例」にも位置付けられている計画であり、小学校区単位の将来像、まちづくりの目標や活動方針、自主的・自発的に取り組む活動内容等を長期的な視点で定めたものである。  
・総合計画にも、『市政運営にあたっては「地域計画」を“地域の想い”として尊重すること』と謳っている。  
・地域計画は、平成21年に全5小学校区で策定され、策定から5年余りを経過した昨年度、時代の潮流や地域課題の変化などを鑑み、見直し作業を行った。先般、各まち協の総会での承認を経て、昨日市長へ提出された。  
・地域計画の公表は、市ホームページ及び主要公共施設への設置を予定している。冊子が印刷製本され次第、委員へ送付する。
- 会長：・では、これをもって第1回総合計画推進会議を終了する。